

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和3年度)

施設 の 名 称	蔵王野鳥の森自然観察センター
指 定 管 理 者 の 名 称	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会
施 設 所 管 部 課 (室)	環境生活部自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成21年 4月～平成24年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	
平成24年 4月～平成29年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	
平成29年 4月～令和 4年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会
	所在地	宮城県利府町神谷沢字菅野沢41
指 定 期 間	平成29年4月1日～令和4年3月31日(5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター		
所 在 地	刈田郡蔵王町遠刈田温泉字上ノ原162-1		
設 置 年 月	平成6年4月		
根 拠 条 例 等	自然観察センター条例		
設 置 目 的	優れた自然と多種多様な野生動植物との触れ合いを通じて県民の自然保護思想の向上に資するため、自然観察センターを設置する。		
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	6, 149. 99㎡	
	構 造	鉄筋コンクリート造 一部2階建	
	内 容	1階 504. 37㎡	2階 623. 70㎡
開 館 (所) 日	◇ 月曜日(休日を除く)を除く日 ◇ 休日の翌日(休日, 日曜日, 土曜日を除く)を除く日 ◇ 12月28日から翌年の1月4日までを除く日		
開 館 (所) 時 間	午前9時～午後4時30分		
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	(1) 自然保護思想の普及及び啓発に関すること。 (2) 自然環境の保全に関する学習に対する支援に関すること (3) 蔵王野鳥の森の自然環境についての情報の収集及び提供に関すること。 (4) 自然観察センターの維持管理に関する業務 (5) 上記の他、自然観察センターの設置目的を達成するために知事が必要と認める業務		
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
	利用料金の名称	入館料	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和3年度) (A)	前年度 (令和2年度) (B)	評価対象年度 (令和3年度) (C)		
開館(所)日数	302 日	190 日	287 日	95.0%	151.1%
延べ利用者数	10,000 人	5,942 人	8,311 人	83.1%	139.9%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和3年度) (A)	前年度 (令和2年度) (B)	評価対象年度 (令和3年度) (C)		
有料入館者	3,100 人	2,401 人	3,321 人	107.1%	138.3%
無料入館者	6,900 人	3,541 人	4,990 人	72.3%	140.9%
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
合 計	10,000 人	5,942 人	8,311 人	83.1%	139.9%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和3年度) (A)	前年度 (令和2年度) (B)	評価対象年度 (令和3年度) (C)		
県指定管理料	24,143	24,143	24,143	100.0%	100.0%
利用料金収入	1,000	784	1,083	108.3%	138.1%
その他	1,227	1,079	1,378	112.3%	127.7%
収入計 (a)	26,370	26,006	26,604	100.9%	102.3%

(2) 支出

人件費	15,246	14,848	14,845	97.4%	100.0%
施設管理費	3,295	3,261	3,168	96.1%	97.1%
事業運営費	7,174	7,314	7,940	110.7%	108.6%
その他	656	582	649	98.9%	111.5%
支出計 (b)	26,370	26,005	26,602	100.9%	102.3%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	1	2	#DIV/0!	200.0%
前期繰越収支差額	80	79	80	100.0%	101.3%
次期繰越収支差額	80	80	82	102.5%	102.5%

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

収 入	1,221	875	1,369	112.1%	156.5%
支 出	656	583	648	98.8%	111.1%
収 支	565	292	721	127.6%	246.9%

6. 評価対象年度(令和3年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
				評価		評価	
①管理運営体制	所長1名、次長1名、準職員7名、経理サポーター1名で管理運営にあたりました。 管理運営内容は ①教育機関に野外体験の場としての有効性を広げ、蔵王自然の家との協力体制を継続することにより利用者の利便性を向上しました。 ②自然体験教室・自然観察教室を強化して利用者が気軽に自然に親しめる施設を目指して活動しました。 ③施設管理は安全・安心は当たり前の考えに立ち、随時巡視を実施して安心・安全に努めました。		計画とおりの人員で管理運営にあたりました。 ①管理区域及び付属施設については、散策路の巡視を88回、散策路の整備を21回実施しました。 ②建物等の管理は再委託分を含めて適正に管理を実施しました。 ③物品の使用及び管理・施設の共有等は破損・紛失等は無く適正な管理運営に努めました。 自主イベントは総数79回で参加者人数は927名で、参加人数で前年比82%となりました。 有料入館者数は増加しましたが無料入館者は目標には達していません。新型コロナウイルス等が影響しております。		A	新型コロナウイルスの影響などもあり、入館者数全体では目標を下回っているが、様々な工夫を凝らし、来館者促進に努めている。 また安全管理の順次も随時実施するなど、適切な管理運営体制であったと認められる。	A
人員体制	正規	2人	非正規	8人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	「施設の保守・管理に関する業務計画」に従い、各業務を実施しました。 職員が実施する業務として ○巡視時のいち早い危険木や枯損木の発見と散策路のごみや枝などの障害物の撤去を行いました。 ○建屋、貸与品の軽微な修繕は職員が実施しました。		再委託分は計画書と通り実施し、職員が実施する業務では ○巡視時には巡視報告書を作成して職員間の情報共有に努め、効果的に巡視・森林整備を行いました。 ○散策路の維持管理は計画的に行い、野鳥の森利用者の安全確保に努めました。		A	施設・整備の維持管理として、巡回時の巡回報告書を作成することで、職員間の情報の共有化を行っているなど、施設の維持管理が適切に実施されたと認められる。	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	幅広い年齢層でも気軽に自然体験ができるように以下の施策を設定して運営しました。 ①展示学習プログラム 特別展示コーナーには生物多様性普及啓発活動のためのポスター展示を行い、当年度の取り組み状況を写真展示を行いました。 ②自然体験プログラム 自然観察の「野鳥のくらしを探ろう」の実施とともに、森の癒し体験を実施し、飲食を伴うイベントは実施しませんでした。 ツイッター・ブログを随時更新してイベント情報や施設案内を提供しました。		①利用者からの要望や意見を取り入れながら、要望の多いイベントや参加者の多いイベントを検討しながら、減らすべきか増やすべきか適正な運営に努めました。 ②ものづくり体験 制作できる木工を増やしたり、簡単にできる方法を職員同士で検討して要望に対応しました。 ③仙南各市町村の広報誌にイベント情報を提供しました。		A	展示コーナーは、照明の角度やLED化を実施するなど、明るく見やすい環境に改善し、イベント情報の発信に努めるなど、適切に運営されたと認められる。	A
④自主事業の実施	生物多様性プログラム等新型コロナウイルス対策として、屋外でのイベントに重点を置き野鳥の森ハイキング・森の癒し体験を企画して79回実施しました。		昨年度の実施数71回より増加しましたが、927名の参加者があり、参加者は減少しました。新型コロナウイルス対策として屋内でのイベントは人数を制限しました。		A	前年度より実施回数を増やしたものの、参加人数は昨年度を下回ったが、新型コロナウイルス感染防止のための参加人数制限などの措置を講じており、企画・運営は適正に実施されたと認められる。	A
⑤利用者サービスの向上	○野鳥の森を気軽に散策できるように定期的にガイドを実施して、希望に応じて随時ガイドを実施しております。 ○来館者に声掛けを実施するとともに、野鳥観察室には職員が対応して野鳥の説明を実施しております。 ○無料開放日として4月29日(開館記念日)、5月10日～同16日(愛鳥週間)、10月26日～27日(東北文化の日)、及び毎月第4水曜日を実施しました。		○常設展示の改装に伴う空きスペースに季節により野鳥の森で見られる花・木を説明とともに写真で展示しました。 ○野鳥の森利用者には季節の花々を堪能できるように散策路の案内図、花々の小冊子を配布しております。 ○館内にセンサーカメラで捉えた野鳥の森の動物たちを新たに追加して映像として流して、誰もが視聴できるようにしております。		A	新たな展示物に写真や動画を追加したり、散策路の案内図や花々の小冊子配布など、利用者へのサービス向上に努めていると認められる。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	利用者の意見、要望等は「ご意見カード」に記入していただいております。設置場所は入館者受付カウンター及び2階休憩コーナーの二か所に設置しており、寄せられた意見や要望は入口風除室に掲示して対応状況をお知らせしております。		○ご意見カード回収数122枚 ○意見記載カード50枚 ○意見対応数1件		A	ご意見カードの意見や要望等に、適宜対応状況を知らせるようにしており、適切な対応であると認められる。	A
⑦安全対策	○受付脇にAED装置を設置して職員誰でもが使えるように、年一回の救急救命士からの講習を受講しております。 ○消防訓練は年二回実施しており、通報訓練・避難訓練・消火訓練を実施しております。 ○防火管理者の講習を職員5名が受講、乙種第4類危険物取扱者も5名が所持しており、緊急時の連絡先や近隣の病院等の連絡先を事務所に掲示して、緊急時には遅滞なく対応できるようにしております。		○消防計画に基づいた防火管理と消防訓練を年二回実施しました。自然災害を想定した防災計画を作成して運用しております。 ○受付にはサーマルカメラ及び消毒液を設置して来館者全員の検温・消毒を実施するとともに、各階・各コーナーに消毒液を設置して来館者が自由に消毒できるように消毒液を配置した。 ○常設展示のタッチパネル部分は閉館時ウイルス対策用スプレーで消毒を実施しております。		A	消防計画に基づいた防火管理と消防訓練を年二回実施し、自然災害を想定した防災計画を作成して運用しており、適切な管理運営体制により、来場者の安全確保に努めていると認められる。	A
⑧県民の平等利用	利用者の平等利用のために、特定の個人や団体等に対して有利や不利にならないようにしました。特に障害を持った方や弱者に対しては可能な限り安全かつ負担にならないように配慮しました。		公共の施設として何人も不公平感がない施設であるべきで、利用者が公平に利用できるように、各市町村広報、HP・ツイッター等で広く発信を行いました。		A	利用者の公平性に配慮されており、多様な利用者に対して、適切な運営体制であったと認められる。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	蔵王野鳥の森自然観察センターの管理に関する協定書第22条を厳守して、イベント参加者等からの個人情報の収集は本人の理解を得た上で実施しました。特にご意見カード協力者やイベント参加者の個人情報は集約し所長を個人情報保護管理者に定めて責任を明確にしたうえで管理保管をしました。	イベント参加者の名簿・ご意見カードは、速やかに個人情報管理者に移行するようにイベント時ごとに注意を促しております。ボランティアスタッフ名簿も個人情報として取り扱い、個人情報はすべて金庫に施錠して保管してしております。	A	個人情報の管理について、適切に取り扱われている。	A
⑩利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり。	○開館日数 計画302日 実績287日 対比95.0% ○利用者数 計画10,000人 実績8,311人 対比 83.1% ○利用料金収入 計画1,000,000円 実績1,083,000円 対比108.3% ○自主事業等収入 計画1,227,000円 実績1,378,000円 対比112.3% 以上の結果となりました。	B	コロナ禍の中、利用者数は前年度比で若減少したが、自主企画収入は前年並みを維持しており、集客に対しての努力の効果が認められる。	B
⑪収支実績	上記「5. 管理運営収支実績」のとおり。	費用対効果を考慮した予算の活用を行いました。	A	コロナ禍の中でも前年並みを維持しており、収入に見合った費用対効果を考慮した予算活用となっている。	A
⑫その他の取組	年二回の外部評価委員会を開催して客観的立場で、施設運営に役立てております。	蔵王自然の家、えぼしリゾート、こけし館との協力体制が築くようになり、また、外部評価委員会からの建設的な意見を取り入れ施設運営につながりました。	A	入館者数は前年度より減となっているが、蔵王町との関係を密にしたり、蔵王自然の家との協力体制を図る等、入館者数の増加へ向け適切な取組が実施されていると認められる。	A
総合評価		指定第3期5年目にあたり、事業計画書に則り管理運営を行いました。団体利用者等の増減は新型コロナウイルスの影響と思われま。今後とも県民サービス・自然に親しむ場所を目指して活動を継続していきます。	A	誠実に管理運営されており、努力と工夫も十分評価に値する。 1階展示室の改修も行われ、動画や写真の展示を増やすなど、更に当該施設の利用と認知度向上に向けた取組に期待したい。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	1 職員の高齢化が進み後継者の育成が重要であり、後継者をどのように育てていくのかも課題である。 2 今後施設の改装等が多く予定されており、学校等の受け入れに影響があるか懸念される。	新型コロナウイルスの影響で入館者数は例年より減となっているものの、前年度より増加している。蔵王町との関係を密にしたり、蔵王自然の家との協力体制を図る等、入館者数の増加へ向けた取組は評価される。 引き続き、様々な方法により施設の周知に努めてほしい。